

平成30年1月

## 林大臣のユネスコ総会出張について

1. 日程

11月3日（金）

2. 出席者

林文部科学大臣

3. 用務先

フランス（パリ）

4. 概要

2年に1度開催されるユネスコの最高意思決定機関であるユネスコ総会に出席し、我が国を代表して一般政策演説を行うとともに、本総会中に就任が承認される予定のアズレ一次期ユネスコ事務局長候補（前フランス文化・通信大臣）と会談を行った。「世界の記憶」については、一般政策演説において、事業の本来の意義を再確認するとともに、ユネスコに対して、事業の包括的な見直しに取り組むよう求めた前回執行委員会の決議を歓迎し、我が国としても役割を果たしていくことを述べた。また、我が国の財政支援により創設された「ユネスコ／日本ESD賞」の授賞式に出席した。

①一般政策演説（演説全文は別添）

- ・ 全省庁を挙げて行う我が国におけるSDGsの推進
- ・ SDGs達成に向けたESDの更なる推進と、事業間の連携を通じた科学分野におけるSDGsの推進を期待
- ・ 「世界の記憶」事業の包括的な見直しを求めたユネスコ執行委員会決議を歓迎
- ・ ボコバ事務局長の8年間の尽力に感謝するとともに、ユネスコが加盟国間の友好と相互理解を促進していくよう、新事務局長の下で積極的に貢献



## ②アズレー次期事務局長候補との会談

- ・林大臣から、ユネスコの過度の政治化への懸念、米国の脱退表明も念頭においたユネスコ全体の改革の必要性、SDGsの重視について伝達。
- ・アズレー氏より、3点について理解するとともに、「世界の記憶」について、事業全体の改革とともに、個別の案件について、当事者間の対話を促進する仕組みについて検討したいとの発言あり。



## ③ボコバ事務局長との会談

- ・林大臣より、ボコバ事務局長の8年間の功績及び「世界の記憶」事業の制度改善に関するユネスコ執行委員会決議の採択に向けた努力に謝意。
- ・ボコバ事務局長より、2010年の来日時における学校訪問や、SDGsへのESD記載について日本の努力に感謝する旨発言。



#### ④第3回ユネスコ／日本ESD賞授賞式

- ・「ユネスコ／日本ESD賞」は、我が国の財政支援により、2014年のESDに関するユネスコ世界会議時に創設を公式発表したもの。世界のESD実践者の取組に対して国際公募を行い、毎年、特に優れた取組3件を表彰（1件当たり賞金5万米ドル）
- ・林大臣から、ヨルダン、ジンバブエ、イギリスからの受賞団体に賞金を授与。

